

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4071101770		
法人名	有限会社 めぐみ		
事業所名	グループホームのため		
所在地	〒811-1347 福岡県福岡市南区野多目5丁目20-12		
自己評価作成日	平成29年10月20日	評価結果確定日	平成29年12月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/40/index.php?action_kouhyou_pref_search_keyword_search=true
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アール・ツーエス		
所在地	福岡県福岡市博多区元町1-6-16	TEL:092-589-5680	HP: http://www.r2s.co.jp
訪問調査日	平成29年11月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】(Altキー+enterで改行出来ます)

家庭的な雰囲気を大切にし、入居者と職員が疑似家族のような家庭の延長線上にあるホーム作りをしています。毎日の食事にも力を入れ、栄養のバランスと食事を楽しむという考えの中、行っています。また、ホーム看護師との連携や同一法人である訪問看護ステーションの看護師や24時間往診対応の協力医との連携体制の整備により、入居者の健康管理にも力を入れています。最近では事業所の力を活かして地域での福祉の拠点活動として、認知症についての出前講座やまちづくり協議会への参加など、地域包括ケアに向けて地域活動に力を入れています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホームのため」は同圏域に1ユニットグループホームと、隣接して訪問看護を持つ1ユニット事業所である。代表兼施設長が看護師であること、系列に訪問看護があることで医療対応に優れており、日々の健康管理や医療支援への取り組みに強い。同地区は南区内でも特に高齢化の高い地域であるため、地域に対しての働きかけに力を入れており、要請を受けて講師派遣をしたり、主体となって勉強会を実施することもあった。昨年発足した「まちづくり協議会」では地域の活性化に向けた話し合いや意見交換がなされ、運営推進会議にも生かされている。日頃は家庭的な雰囲気の中で、和やかに過ごされており、日々取り組むレクや体操にはじっくり時間をとっており、調査時も元気な声が響いており、健康維持の秘訣がうかがえた。法人全体で研修にも力を入れており、外部講師などを招きながら継続的に学習機会がもたれている。今後も地域を支える認知症対応事業所としての活躍が大いに期待される事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「すべては入居者の為に」という思いで作られた理念を毎朝の朝礼で唱和し、職員間で理念の意義を理解するようにしている。	開設時から作られている、グループホーム共有の「すべては入居者のために」というスローガンのもと、4つの法人理念が定められ、すべてを毎日唱和している。毎月のカンファレンスの際にも、その人らしく、というキーワードをもとにケアについて考えられたり、年間の目標も定めている。入社時には代表と管理者からも理念や事業背景についてのオリエンテーションも行っている。	入居者が「その人らしく」過ごせるように、その人らしさを知り、さらに理解を深めることを課題として考えている。かかわり方や技術向上を目指して今後も職員全員の共通課題として取り組み続けることが期待される。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホーム職員と利用者は、地域の一員として、公園の愛護活動や町内の資源回収やお祭りなどに積極的に参加している。地域での福祉まつりでの認知症についての出前講座や、地域ボランティア対象での事業所説明会など地域に開かれた事業所を目指している。	近隣の地域資源を活用しながら、買い物や散歩などを日々行っている。隣家の畑づくりを手伝うことで、お互いの助けや刺激にもなり、良好な関係を築いている。地域社協の依頼を受けて地域のふれあいネットワークの参加者に向けて、介護の基本情報についての勉強会も行った。校区の夏祭りや運動会、餅つきなどは入居者と一緒に参加している。地域からの依頼を受けることも増えており、頼られるようになってきた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括支援センターや校区社会福祉協議会、介護事業所と連携し、福祉まつりを企画。そこで、認知症についての講演を行った。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は同じ町内にある小規模多機能ホームと合同で毎月開催しており、そこでサービスの実際や評価への取り組み状況等について報告している。そこで出された意見や要望は検討し、ホーム運営や、業務改善に反映するように努めている。	同町内の小規模多機能事業所と合同開催しており、相互に主担当を変えながら、毎月第4金曜の昼過ぎから開催している。町内会長、地域包括、民生委員、区の保健福祉課、他事業所など地域からの参加も多い。家族は代表を1名定めて固定して参加してもらっている。事業報告のほか、地域の課題など参加者それぞれの立場から活発に意見も出されている。議事録は全家族に郵送報告している。	地域関係者などから会議への参加者は多いが、家族の参加が少ない。時には家族も参加しやすい曜日の検討をしたり、出欠案内と一緒に、意見や要望などを聞き取ることで、家族からの意見も会議運用に活かされてはどうか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	疑問点や困難事例については、介護保険課や生活保護課に相談するように連携を図っている。また、運営推進会議にも地域包括支援センターの職員にも参加してもらい、協力関係を築いている。	相談事などがある時は電話や、区の窓口まで訪問してアドバイスを頂いている。最近でも支援該当の方の請求に関してやり取りがあった。管理者がキャラバンメイトの講師もしており、区の要請を受けて派遣されることも多い。生活保護の方の受け入れもあり、担当課にも定期的な報告をしている。担当課とも顔見知りになって円滑なやり取りがなされている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部研修を受講し、伝達講習を行っている。同意のない身体拘束は虐待になるんだという筆を確認し、身体拘束のないケアの実践につなげている。また、言葉や薬の抑制も身体拘束であることを職員間で確認しあって、ケアに取り組んでいる。	毎年管理者や、職員が市が主催する外部研修に参加しており、内部での伝達もしている。玄関も開放しており、拘束の事例もない。以前センサー利用があったが見直しも行って現在はされていない。離設リスクの高い方はいないが、近隣の見守りや、ネットワークの協力関係は作られている。勉強会によって身体拘束以外の拘束行為に関しても理解を進めている。	

H29.11自己・外部評価表(GHのため)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修への参加と伝達講習を開催し、虐待防止に努めている。		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者から職員に対して資料やパンフレットを用いて、権利擁護の制度について説明と周知をしている。また、入居者や家族に対しては、入居時に制度の説明を行い、必要時には、いつでも支援できる体制を整えている。	以前は成年後見制度の利用者がいたが、今はない。最近キャラバンメイトの連絡会で知り合った行政書士がおり、今後勉強会などで協力してもらうようにしている。内部研修で毎年勉強会も行っており、職員も制度理解を進めている。今後利用が検討される方には外部の関係機関と協力しながら対応につなげる体制である。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約または改定等の際には、入居者やご家族に対して「契約書」と「重要事項説明書」声に出して読み上げ、十分な説明を行っている。入居者や家族からの不安や疑問には具体的に答えるように努めている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時や行事への参加の時に、入居者の日頃の暮らしぶりや健康状態を報告し、家族の意見や要望を聴き取り、ホーム運営や業務改善などに活かせるように取り組んでいる。また、遠方の家族へは月に一度は電話をかけ、意見や要望を聴き取るようにしている。	家族からの意見は面会時に聞けが、遠方の方や疎遠な方もおり、毎月面会に来る方は少ない。毎月、電話報告のほかに、管理者から写真付きの「のため通信」と個別のお便りも発送している。家族参加行事などは全員に案内しており、一部の方は参加もされて交流も持たれている。	表面化してこない意見を聞き取る取り組みとして、匿名で法人が集計するようなアンケートや満足度調査なども検討されてはどうだろうか。
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回のカンファレンスや法人全体での勉強会などで、職員の意見や要望、アイデアを出し合うようにしている。そこで出た案件は検討し、ホーム運営に反映するように努めている。	毎月のカンファレンスは原則全員参加で、パート職員も含め全社員での情報共有、意見交換をしている。分け隔てなく意見を出し合っており、入居者の食事形態など、適宜ケアに反映させている。外出行事なども特に担当を決めずに皆で発言し、積極的に取り組んでいる。代表も現場に入っているため、普段からの相談も気軽にされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員個々の努力や実績、勤務状況について把握するように努め、その都度向上心を持って働けるように声かけをして、評価するようにしている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員募集・採用は、年齢や性別の制限はなく、人柄や介護に対する考え方を優先している。また、職員それぞれの事情などに配慮して希望休やシフト調整を行っている。毎日の仕事では職員一人ひとりの特技や能力を活かせるように職員同士でカバーしながら役割分担している。	全体で13名程度の内2名が男性で、年代層は20～70まで幅広い。研修にも力を入れており、外部講師を招いたものや内部研修などで毎月勉強会を行っている。外部研修の案内もあり、希望したものに参加することもできる。スペースの関係上、休憩場所などはないが、適宜落ち着いた時間を見計らって休憩をとっている。	

H29.11自己・外部評価表(GHのため)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	職員研修に権利擁護や虐待防止などの勉強会を取り入れ、入居者の人権を尊重する介護のありかたについて考える機会をもつようになっている。	毎年の研修計画の中で人権擁護、高齢者虐待などのテーマも定めており、今年は8月に外部講師を招いて研修を行った。昨年は市が主催する人権学習に参加し伝達も行った。今年は行けなかったが、機会がある際には外部の研修にも定期的に参加するようにしている。	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	本人やご家族(キーパーソン)の方から、本人のこれまでの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境等を把握するように努めている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者が同業者同士の情報交換会等に参加し、ネットワーク作りに努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居される前に自宅訪問や面談を行っている。または、ホームでの見学を実施し、ホームの雰囲気を知ってもらえるようにしている。そこで、本人の困っている事や、不安な事などに耳を傾け、出来る限り本人や家族の希望を聞くようにしている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約前や契約時にご家族の困っていること、不安な事、要望等に耳を傾け、受け止めるようにしている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まず、本人や家族の生活環境や身体状況等の情報収集を行っている。また、面談を行って、その中でもっとも必要としている支援を見極めるようにしている。そこで、満床であったり他のサービスが適切だと判断した際は他のサービスを紹介するようにしている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は入居者との間に壁を作らないように努めている。また、入居者との日常生活の中で生活の知恵を教えてもらうことも多くある。		
21		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	町内の夏祭りやホームでの敬老会や誕生日会等への参加を呼びかけ、可能であれば病院受診への同行もお願いし、共に本人を支えていく関係を築くようにしている。		

H29.11自己・外部評価表(GHのため)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者や家族から入居時にこれまでの生活歴や馴染みの人間関係や地域との関わり等について聴き取り、情報収集をするようにしている。入居者の希望には出来る限り応えるように支援している。	家族の面会がある方は少なく、知人や友人の来訪もあまりない方がほとんどである。その中でも馴染みのあったミカン狩りに継続して行ったり、年賀状のやり取りなどの出来る支援は取り組んでいる。家族の協力の下行きつけの美容室に行く方もいる。本人から話を聞いて出来る限りの支援をしていきたいと考えており、野球観戦や以前はお墓参りにお連れすることもあった。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係を把握するように努め、プライバシーを保ちながら部屋に閉じこもったり孤独にならないように声かけを行っている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入居者の方が他施設や病院等への転院された場合でも、面会へ行ったり、必要に応じては本人や家族の相談をきける体制をとれるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前に本人や家族等から、思いや意向を聴き取っている。また、日常生活の中では普段の何気ない会話や、独り言などから、入居者の意向の把握に努めている。意向表出が困難になった場合には、過去の記録を見直したり、その人の表情や仕草から、思いや意向を汲み取るように努めている。	入居時に、本人と家族から聞き取って、関係者からも情報提供を受けながら管理者とケアマネと一緒にアセスメントを行っている。初期の入所時は3ヶ月程度で、以降は半年で見直しも行っている。その人らしさを深めるために、日頃の様子や会話などで挙がった情報をカンファレンスで共有して情報を集めている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人やご家族(キーパーソン)の方から、本人のこれまでの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境等を把握するように努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の一日の過ごし方、心身状態、有する力等については一人一人介護日誌に記録し、全職員で把握するようにしている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者や家族から面会時や行事参加の時に、意見や要望を聴き取るようにしている。その内容については毎月のカンファレンスの中で職員間で検討し、介護計画の実施状況や目標達成状況等を確認している。基本半年で見直しを行っている。	プラン作成、毎月のモニタリングは主にケアマネが行い、半年の見直し時に担当者会議を開催し、主治医や家族からの意見も聞き取って運営に活かしている。毎月のカンファレンスでも全員の状況を毎回取り上げることで、プラン内容も共有し、職員の意見を取り入れている。	プラン目標を全職員で共有し、日々の実施、見直しに繋げていくために、プラン目標の実施チェックを毎日行ったり、現在の日誌と同じファイルに一覧できる形でプランを貼り付けるなどで、より実践的なプラン実施がなされることに期待したい。

H29.11自己・外部評価表(GHのため)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入している。その記録については朝礼等で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族との外出等や、本人の希望による買い物等の外出の支援や、家族との交流をはかる敬老会等の行事を企画して実践している。また、通院援助や隔週の往診、ホームの周りで造園や野菜栽培等を行っている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握するように努め、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるように支援している。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者や家族の希望を優先し、入居前のかかりつけ医の継続も可能にしている。現在は、全員が提携医がかかりつけ医となっている。月に2回の往診を行ってもらっている。隣接した訪問看護ステーションの看護師や、ホーム看護師と提携クリニックの看護師と連携し、24時間安心して医療が受けられる体制を整えている。	内科は事業所の提携医を主治医としてもらい、他科受診は希望する医療機関を継続することもできる。他科受診の際も基本的には事業所から通院支援している。代表が看護師でもあり、ほぼ常駐しているため日々の健康管理はきめ細かく実施されている。家族とも随時医療情報に関して共有しており、口頭で伝達しているほか、服薬管理も提携調剤薬局の訪問により連携されている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ病院の看護師からの情報を引き継ぎ、当ホームの看護師により適切な受診や看護を受けられるように支援している。また、日頃から介護士も気づいた事はすぐに看護師に伝え、指示を仰ぐようにしている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者が入院した際には、着替え等の洗濯物の交換はホームで行うようにしている。また、病院を訪問した際には病院関係者より情報を頂き、出来る限り早期退院ができるように支援している。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に、重度化した場合や終末期についての方針の説明を行い、同意書も得ている。終末期が近くなってきたと判断された時はもう一度家族にホームの方針と体制を説明し、希望を聞くようにしている。また、ターミナルケアに入った場合は看護師による研修を行い、関係機関ともこまめに連携をとるようにしている。	看取りの指針を定めており、入居時に説明し、改めて重度化の際に了承を頂くようにしている。希望があれば最期まで看取っており、最近でもお一人の方を看取った。提携医も24時間対応で、看取りプランも立てており、看護体制も整っているため、医療対応が必要な方でも出来る限りの支援が行われている。研修は対応が必要な方がいる際に随時行うようにしている。	

H29.11自己・外部評価表(GHのため)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者の急変や事故発生時に備えて、マニュアルに沿って話し合いを行っている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の消防避難訓練や、地域での防災訓練への参加を行っている。地域の防災委員会へは要支援者として登録してもらい、有事の際での協力体制を整えている。非常時の持ち出し袋を玄関に用意し、非常食や飲料水等の備蓄も行っている。	校区の防災訓練も毎年行われており、可能な際は入居者も一緒に参加されている。事業所の訓練は夜間想定でも行い、1回は消防署も立ち会われており、近隣住民の方にも案内をして参加もされていた。地域ぐるみで要支援者の協力ネットワークを作り連携がとられている。スプリンクラーの整備もしており、2Fからの避難想定もシミュレーションされている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者へのプライバシーの確保については、特に入浴や排泄介助時に気を配り、入居者のプライドや羞恥心に配慮して実践している。また、入居者の個人情報の保護や、職員の守秘義務については、管理者から常に職員に説明し、徹底している。	入居者それぞれの背景事情などを踏まえたうえで、その場の状況や雰囲気考えたうえで、適切な呼びかけなどを心がけている。周囲の目を意識して入浴や排泄介助時などのプライバシー確保にも留意する。お便りなどの写真利用に関しても入居時に書面で同意を得たうえで内部で活用している。接遇に関しても毎年の研修の中で外部講師なども頼みながら取り組まれている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中では本人が思いや希望を表しやすい雰囲気作りをしている。また、自己決定出来るように適度な距離をおきながら、本人の希望を聞くように努めている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の生活の中には大まかな流れはあるが、その日の入居者のそれぞれの状態や希望を聞きながら、その人のペースにあった一日が過ごせるように支援している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	散髪は本人が希望されるお店があれば、外出支援を行っている。ほとんどの方が希望がないので、職員が担当しているが、本人やご家族も満足されている。冠婚葬祭や歳時の前に希望がある方に関しては美容室への付き添いを行っている。服装に関しては、TPOに応じて、希望を聞きながら決めている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事のメニューは1週間単位で栄養バランスや旬の食材などを考えて、大まかに決めている。日々の生活の中で要望や好みによって臨機応変に変えられるようにしている。また、季節の旬の食材や調理方法で季節を感じながら「食」を楽しめるようにしている。食事に準備や片付け等は、一人ひとりの能力に合わせて出来ることを職員と一緒にやっている。	大まかなメニューを看護師が作成し、時々要望などで変えることもある。借りている菜園で獲れたものを使うこともあり、野菜や魚は地元の商店に配達してもらっている。可能な方には下ごしらえなど手伝ってもらう事もあり、調理レクで皆で調理もしている。職員も同じものを一緒に食事しており、和やかに会話も楽しみながら過ごされていた。レクで外食に行くこともある。誕生日にはケーキや、行事食的な準備もしている。	

H29.11自己・外部評価表(GHのため)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの身体状況(既往歴・身長・体重等)や、その日の状態を把握し、その人にあった栄養摂取や水分確保の支援を行っている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアを実践している。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄や排泄の自立を目指し、入居者の排泄パターンや生活習慣を把握し、タイミングを見ての声掛けや誘導を行い、トイレでの排泄支援に取り組んでいる。また、夜間も本人の状態をみながらトイレ誘導も行き、オムツ使用の軽減に取り組んでいる。	個別の勤務日報により、24時間の排泄タイミングを記録し、別途排泄チェック表に回数を管理するようにしている。便秘に関しても処置のタイミングを明記することで、対応の漏れがないようにしている。改善に関しては気づいた職員がカンファレンスや申し送りの際などに提案するようにしているが、最近ではあまり状況の変化は見られていない。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の生活の中で、散歩や家事手伝い・体操により身体を動かす事や、食事(食物繊維・水分)量等に注意をしている。また、排泄チェック表での排便確認を行い、主治医との相談のうえ、服薬にて排便コントロールを行っている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は週3回と決めているが、入居者の体調や希望を聞きながら、いつでも入る事も可能である。日々の入浴剤の使用や、季節のゆず湯・しょうぶ湯・生姜湯など、入浴を楽しめる工夫をしている。入浴拒否のある入居者には、時間やスタッフを変えてみたりして、無理強いをせず、清拭や足湯に変更したりして対応している。	家庭用のユニットバスの造りで、浴室内の空調や、脱衣場の暖房も準備している。基本的には週3回屋からの入浴で回数も決まっているが、希望すれば入浴日以外の対応もできる。順番はそれぞれ相談しながら譲り合って不満の無いようにしている。皮膚観察や健康管理の場としても役立て、必要な際には看護師にもつないでいる。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣や状態にあわせて、休憩時間や、就寝・起床時間を考慮している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりが使用している薬については、主治医や薬局の薬剤師から副作用、用法や用量についての説明を受けている。また、一人ひとりの薬の説明書を個人記録に綴り、職員全体で共有できるようにしている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各入居者の能力や出来る範囲にあわせて、生活歴や力を活かした調理補助や洗濯物たたみ・掃除等をしてもらい、毎日張り合いのある生活を送れるように支援している。		

H29.11自己・外部評価表(GHのため)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には、散歩に出かけたり、ちょっと畑の野菜の育ち具合を眺めに出かけたりと、本人が望むように外出できるようにしている。また、季節に合わせての夏祭り・紫陽花鑑賞・コスモス鑑賞・桜花見・初詣等の外出も行っている。本人の希望で家族の協力でみかん狩りや野球観戦にも出かけたりしている。	グループホームの専用車ではないが、隣接の訪問看護の車を借りたり、レンタカーやタクシーを使うなどして、遠方への外出も2ヶ月に1回程度企画している。気候のいい時期は近隣の公園などに散歩にも出かけている。車いすの方も同じように外気に触れる機会を作ったり、テラスやベランダに出ている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族と相談のうえ、少額で本人の希望があれば、本人が所持出来るようにしている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	24時間電話の利用は可能で、年賀状などの支援をしている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	普通の家のような家庭的な作りにし、入居者一人ひとりが自分の家のように過ごしてもらえるようにしている。また、庭先には季節の花を植え、リビングには季節の飾り物や歌を掲示し、季節感を大切にしている。調理もカウンターキッチンで行い、まな板の音や料理の匂いが漂うような家庭的な雰囲気作りも行っている。	周囲の景観にも馴染んだ民家のような造りで、玄関先には庭もあり花木も綺麗に手入れされており、ペットの犬が戸外に飼われている。1、2Fで1ユニットが分かれており、2Fへはチェアリフトでの上り下りが出来る。階段を中心に回廊式にもなっており周回して歩行訓練することもある。各所に絵画や、季節感のある飾り付け、月の歌詞などが飾られ賑やかな雰囲気に一役買っている。玄関、ホール、キッチンまで一体で、こじんまりとした造りが家庭的な共同生活の場を作り上げている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングが入居者同士の語らいの場になっており、各居室へは各自自由に行き来出来るようにしている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	転倒や怪我の危険性を考慮しながら、家族とも話し合い、仏壇や馴染みの家具を持ち込んでもらい、本人が安心して居心地よく過ごせるように配慮している。	1Fに3部屋、2Fに6部屋があり、各居室に電動介護ベッドとクローゼットが備え付けられている。部屋の位置によっては日当たりの良くないところもあるが、天窓などにより採光を確保している。思い思いの表札を飾り、テレビや机などの持ち込みも自由にされている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すり机等の配置を工夫して、出来る限り自立した生活が送れるようにしている。		